

事例 37

タイトル： 興奮して同じ訴えを繰り返すAさん

・ <事例の状況>

特養入居後、数日ごとに、「金を返せ。」「息子に電話しろ。」等の訴えが繰り返されるケース。スタッフや入居者等、まわりにいる方に同じ話を繰り返し聞かせる。それが原因で時に入居者と言い争いの喧嘩になることがあるがその際、本人は一步も引かず、負けない。

傾聴していても、「早く電話しろ。」「息子を呼べ。」「警察に連絡を。」と興奮はエスカレートしていく。興奮して話をし続け、最終的には疲れ果て、呼吸も苦しくなって興奮が収まる。

・ <この事例で課題と感じている点>

なかなか興奮が収まらないこと。 大声でまくしたててまわりに話をする。 共感しないと喧嘩になってしまうこと。

・ <キーワード>

同じ話の繰り返し。 他者との言い争い。 興奮。

・ <事例概要>

【年齢】 90歳代後半

【性別】 女性

【職歴】 奉公 内職 行商

【家族構成】 入居以前は、息子と同居

【認知機能】 HDS-R 17点

記憶：短期記憶の障害は顕著。

認知機能：時間・人・物の認知はほぼ出来る。誤認はほとんどない。

【要介護状態区分】 要介護3

【認知症高齢者の日常生活自立度】 b

【既往歴】 洞不全症候群 ペースメーカー挿入 脳内出血

【現病】 心不全増悪

【服用薬】 アムロジンOD・牛車腎気丸エキス粒・エスパデールS・マグミット錠・
ガスターD錠・ラシックス錠・モーラステープ・パントシン散・酸化マグネシウム・
グラマリール錠・ユーロジン・PZC糖衣錠・セディール錠

【コミュニケーション能力】 意思疎通は可能。ただし記憶障害のため連続性はない。

【性格・気質】 勝気。 負けん気が強い。

【ADL】 立位は数秒のみ可能な状態。移動時は車椅子に乗車し移乗は介助、自操する。
排泄や入浴は軽介助が必要。食事は調理配膳出来ないが自力で摂る。

【障害老人自立度】 B1

【生きがい・趣味】 新聞や本を見ることもある。

【生活歴】 幼少から奉公に出る。若くして夫を亡くした後は一人で働いて家計を支えた。子供は三人。息子一人に先立たれた。その後別の息子と同居しながら、80歳代半ばまで働いた。

【人間関係】 勝気な性格から対人関係を悪化させ、子供達との関係もあまり良くない。友人はいない。

【本人の意向】 子供達にはきちんと生活してほしいし、会いたい。

【事例の発生場所】 特別養護老人ホーム